

◆はじめまして◆課長

齊本 美津子

2月1日より聖隸おおぞら療育センターの1号館にまいりました齊本です。私と聖隸おおぞら療育センターとの出会いは、時をすいぶんとさかのぼり高校1年生の時です。労作という授業で利用者さんベッドの周りやお部屋の掃除を頼まれ、雑巾でベッド枠やベッドの周りを掃除している時のことです。何気なく利用者さんに声をかけた「こんにちは」という言葉に、ベッド上で自分がキヨロキヨロと動く利用者さんのことを今でも思い出します。その時に「お友達が来たね」と楽しそうに声を掛けている看護師たちの姿は、とても印象的でした。そしてこんな看護師さんって素敵だなと思い、今でも私の看護師モデルの1人になっています。

現在はだいぢやうらで生活をしている利用者さんと、学生時代にお散歩に出掛けたこともありました。彼らの歩く速度の速さと力強さに圧倒され、どっちが散歩に連れて行つてもうつているのかわからなくなつた思い出もあり、ある横地先生とここでまた出

会うことは、何かの縁でしょか。そしてなによりもありがとうございましたと思ふことは、聖隸三方原病院で助産師をしていた時に百合子次長とかかわった患者さんに出会え、再びここ、おおぞら療育センターでお世話をになり、大学院生の時には護実習と助産学の実習で聖隸おおぞら療育センターでお世話を頂きました。

社会人になり、助産師とほんの少しの看護師経験しかない私は介護福祉士の教員の役割が来た時も、学生の実習指導で聖隸おおぞら療育センターを担当した際には、職員の皆さんから多くの指導と励ましを貰いました。今年で7回目となるこの活動ですが、冷たい風が吹く中、2号館の窓ガラスを皆さん一生懸命清掃してくださいました。

今年で7回目となるこの活動ですが、冷たい風が吹く中、2号館の窓ガラスを皆さん一生懸命清掃してくださいました。私は自分がここで課長の役割を頂くとは夢にも思いませんでしたが、助産師として聖隸三方原病院で一緒に働いていた鈴木百合子次長、学生時代に講義に来ていた先生かつ、聖隸浜松病院の小児科外来で一緒に仕事をしたことの

利用者さんの顔を見るとその時を懐かしく思います。彼らには人の手の温かさや生きてることの大切さを教えてもらいたいです。その後も小児看護実習と助産学の実習で聖隸おおぞら療育センターでお世話をになり、大学院生の時には

今日は今までとは立場が全く変わり、見る景色が変わってくると思います。これから春に向かい桜が咲き風薫る日を楽しみにしながら、ここでみなさんと季節の移り変わりと共に楽しみ、成長したいと思います。そしてどうかみなさん、また私が歩く姿を温かく見守つてくださいね。



「小さな親切」運動

平成26年2月4日(火)、聖隸おおぞら療育センターに新しい福祉車両が加わりました。

カラフルなイラストが施されたこの車両は、あさひの送迎で使用します。

今回、日本財團様からの助成金を受けて車両を購入することができました。

ご支援ありがとうございました。

苦情解決委員会より

2013年10月～12月
苦情はありませんでした

	1月	2月
ショートステイ利用者数(延べ利用日数)	89名(497日)	96名(517日)
日中一時支援利用者数(延べ利用日数)	3名(12日)	2名(12日)
ボランティア参加人数(グループ数)	15名(5グループ)	12名(2グループ)
実習者数(グループ数)	3名(1グループ)	16名(1グループ)



新たに車両が加わりました。

また、この奉仕活動に先立ち、「小さな親切」運動静岡県本部からは車イスを1台寄贈していただきました。頂戴した車イスは、施設を利用される方のために、有効に活用させていただきます。

職員一同、感謝申し上げま